

## 名古屋市厚生院「附属病院」(204床)

## を名古屋市立大学へ**統合**(付属病院化)

方針を公表(3/18 名古屋市議会答弁) \*時期は未定

止めどない、名古屋市の直営病院放棄！ **市立大学附属病院は、1病院 800床が5病院2, 200床へ焼け太り！？** なぜ、大学病院化なのか？ 全く根拠無いご都合主義と、大規模化競争で全国の大学病院の覇権争い？！

設立主体等	病院名	所在地	病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	大学附属病院化
市立大学法人	名古屋市立大学附属病院	名古屋市瑞穂区	772	725	47	0	0	0	現在の大学附属病院
名古屋市公営企業	名古屋市立東部医療センター	名古屋市千種区	488	292	196	0	0	0	2021/4大学法人化
名古屋市公営企業	名古屋市立西部医療センター	名古屋市北区	500	261	239	0	0	0	
名古屋市公営企業(指定管理)	名古屋市立緑市民病院	名古屋市緑区	300	0	100	105	0	95	2023/4大学法人化
名古屋市	名古屋市厚生院附属病院	名古屋市名東区	204	0	0	0	168	36	時期未定-大学法人化
	合計		2,264	1,278	582	105	168	131	5病院化

名古屋市は、3/18の市議会において、「名古屋市厚生院」の附属病院について、名古屋市立大学と統合する方針を表明しました。

「名古屋市厚生院」は、①特別養護老人ホーム300床+②救護施設(生活保護)+③附属病院(204床)で構成される全国的にも数少ない高齢者を対象とした福祉と医療・介護の総合的・複合施設です。設立は大正15年に遡り、昭和26年に病院を併設し、昭和57年に現在地(名東区猪高緑地)に移転整備された歴史と伝統を受け継いだ名古屋市の福祉充実の象徴とも言える福祉医療センターです。しかし、名古屋市は累積赤字と市の財政的負担などもっばら、経営合理化を優先させた将来構想の検討の中で、①「特別養護老人ホーム」は、**廃止**(2027年度末予定)、②「救護施設」(生活保護施設)は2024年度中に『植田療(天白区)』と**統合**、③「附属病院」は『市立大学』と**統合**し附属病院化、の方針を明らかにしました！ 詳細な計画・スケジュールは明らかではありませんが、大学附属病院化の必要性も何んら明らかにされず、名古屋市立大学附属病院は、1病院から5病院体制へ大きく変貌することになります！

2021/3/19 中日新聞

### 厚生院病院を名市大に

市が統合方針 特養ホームは廃止へ

医療複合施設「名古屋市厚生院」(名東区)の付属病院について、市は18日の市議会財政福祉委員会で、名古屋市立大(瑞穂区)と統合する方針を示した。大学が持つ研究成果を還元することで、より質の高い医療の提供を目指すという。施設内にある特別養護老人ホームは廃止、生活保護者が暮らす救護施設は別施設と統合する方針で、将来的には病院機能の

みが残る。付属病院は医師の欠員や赤字運営などが課題となっており、運営のあり方を検討してきた専門家会議が昨秋、「実施主体を公立大学法人とするのが望ましい」とする結果をまとめた。この日の委員会で岡本善博議員(自民)が市当局に統合を提案したところ、市側が「厚生院の理念や実績を含め、引き継ぐには難しい相手。統合に向けた協議を進めたい」と答えた。

市によると、病院は19年度に1億円の赤字があったほか、医師は18人の定員に対し1人にとまっていた。また特別養護老人ホームについては、2027年度末までに廃止し、生活保護者のための救護施設は植田療(天白区)と24年度中の統合を目指す。病院は31床、特養の定員は310人。セブティネットの経営あり、低所得者を中心に利用がある。(永越直哉)